

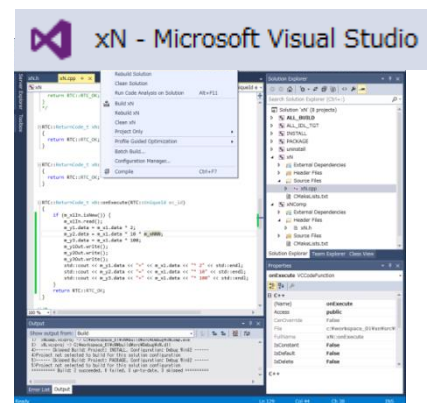
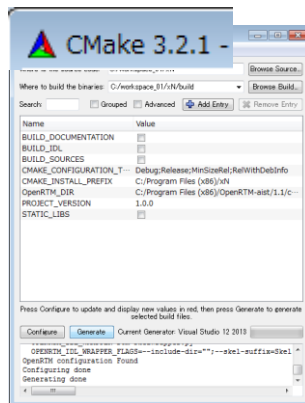
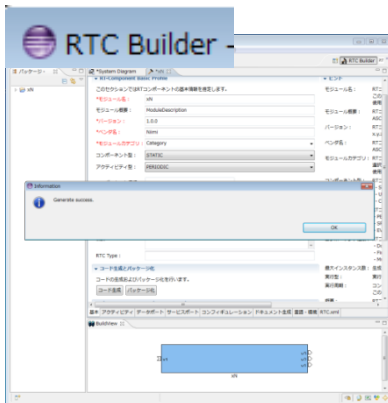
## StarTno\_00 説明書 02

# RTC の作り方 2

(Win10, Visual Studio2015)

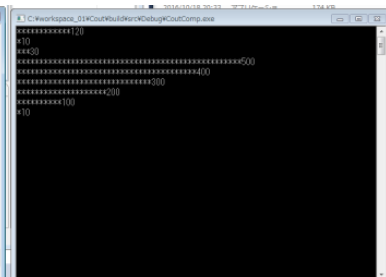
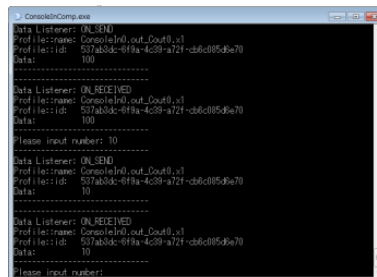
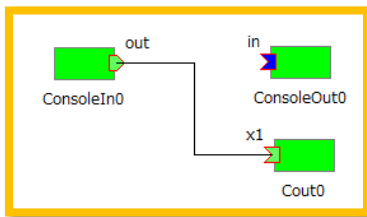
## 作成手順

RTC ビルダーでコンポーネントを構築し, CMake で必要なファイルを作り, VisualC++でコードを書いてビルドする. RT システムエディタで動作確認を行う.



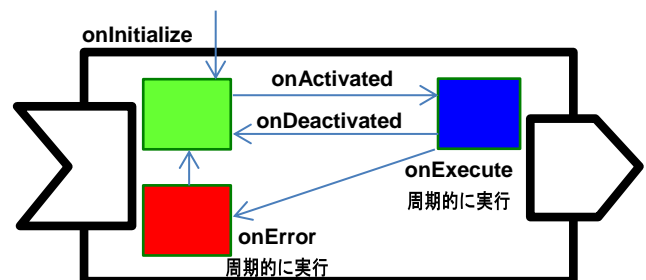
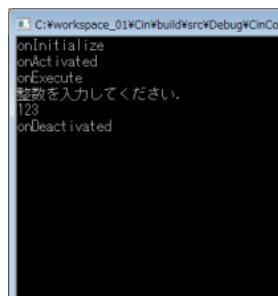
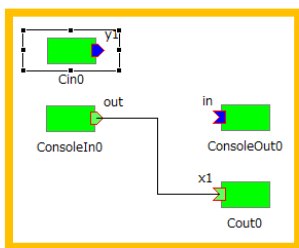
## Cout (001~022)

コンソールアウトに相当する RTC. 簡易棒グラフ機能付き.



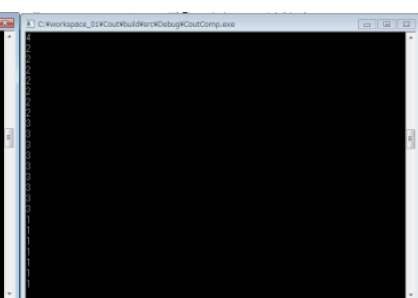
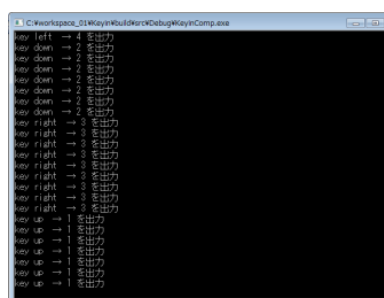
## Cin (023~027)

コンソールインに相当する RTC. 状態の遷移を表示する.



## Key in (028)

1, 2, a, ↑, ↓, ←, →のキーを押すと, 1, 2, 1, もと+10,もと-10,もと+1,もと-1を出力する RTC..

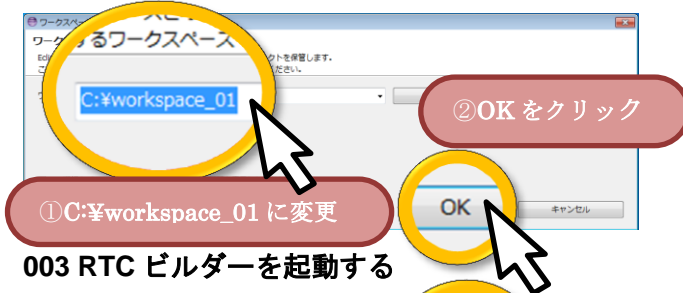


## 001 OpenRTP1.1.0 を起動する ①

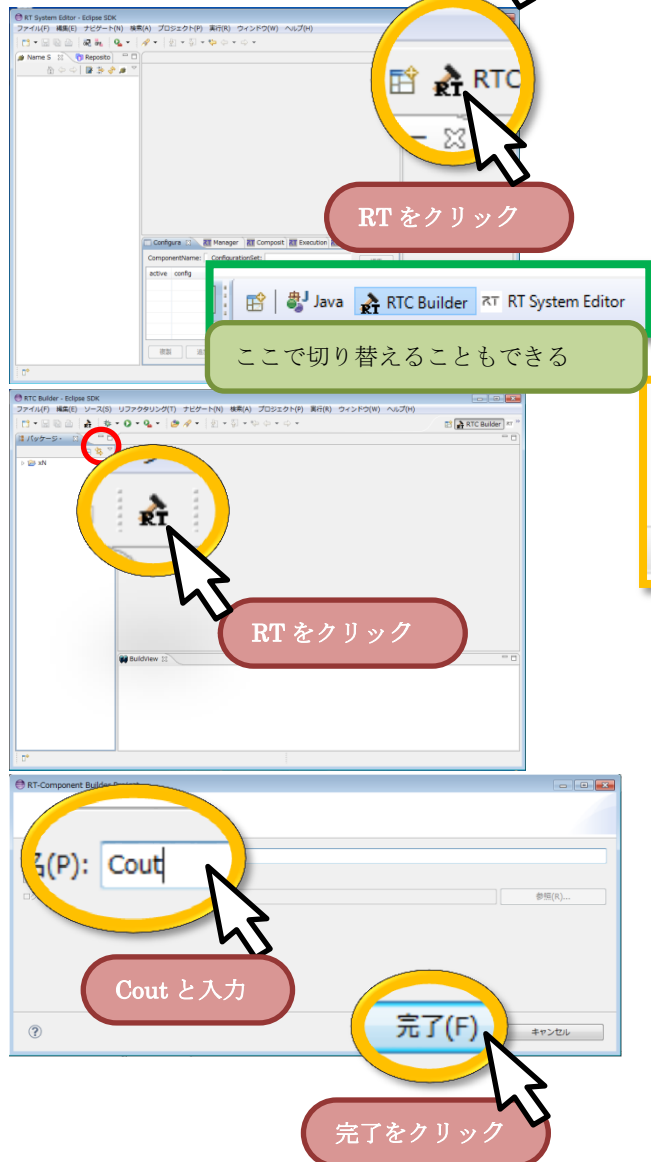


## 002 ワークスペースを設定する

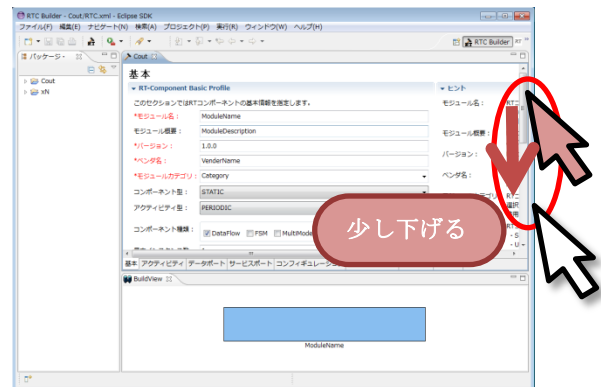
ここでは C:\workspace\_01 を設定した。



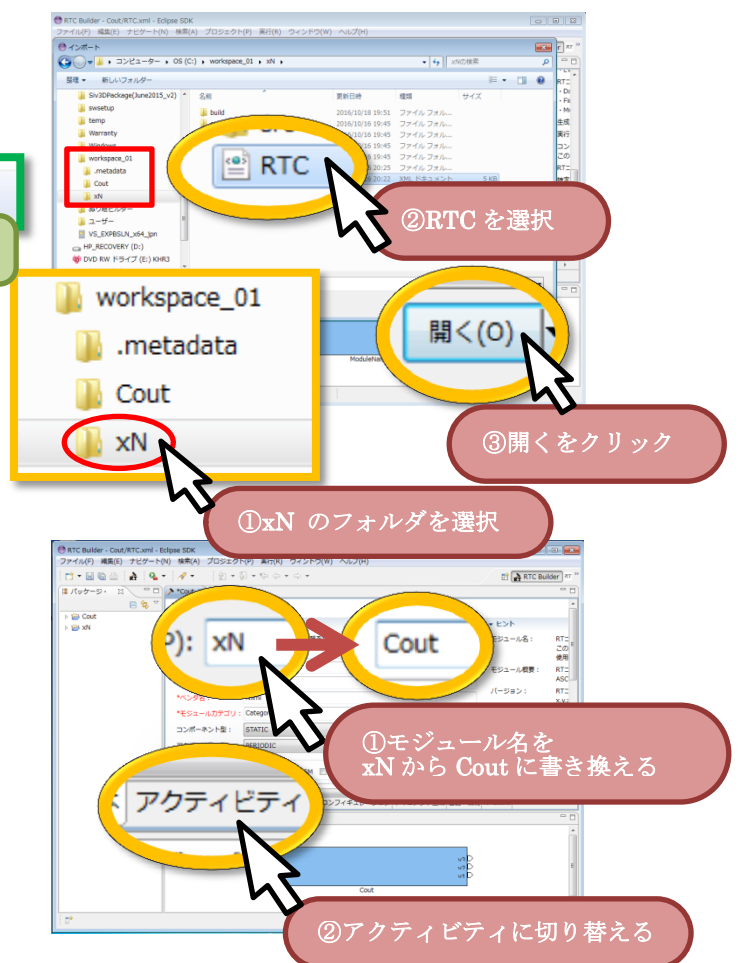
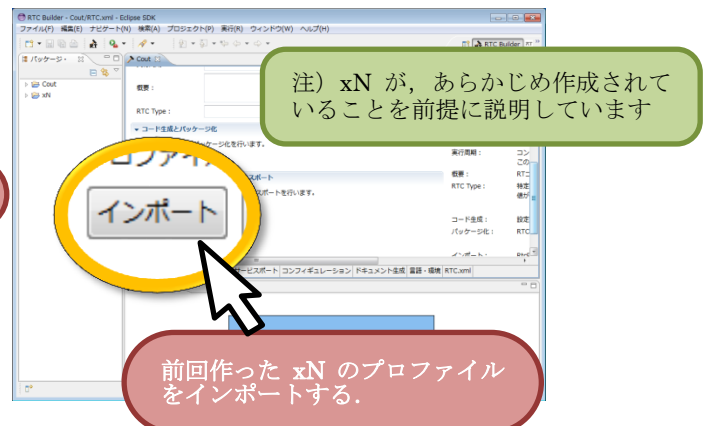
## 003 RTC ビルダーを起動する



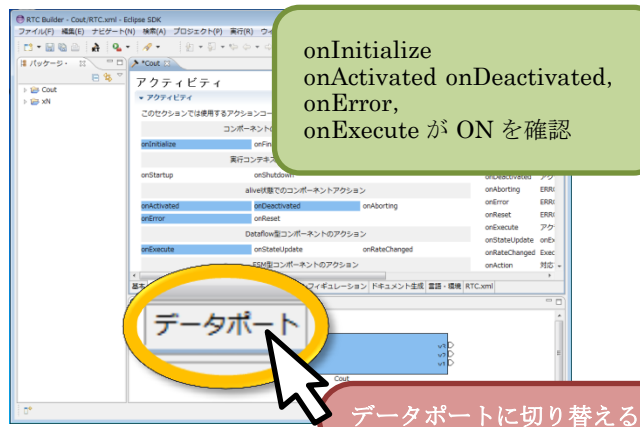
## 005 RTC ビルダーの画面



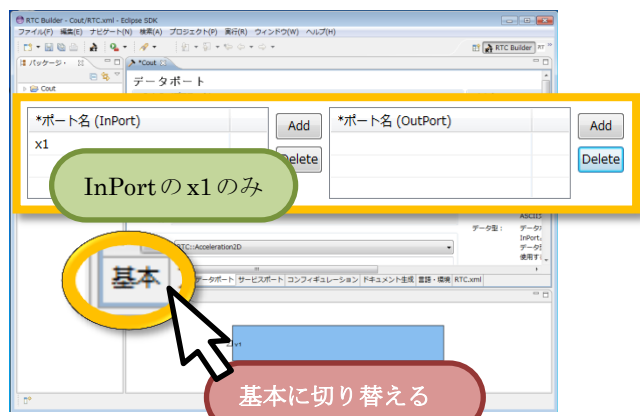
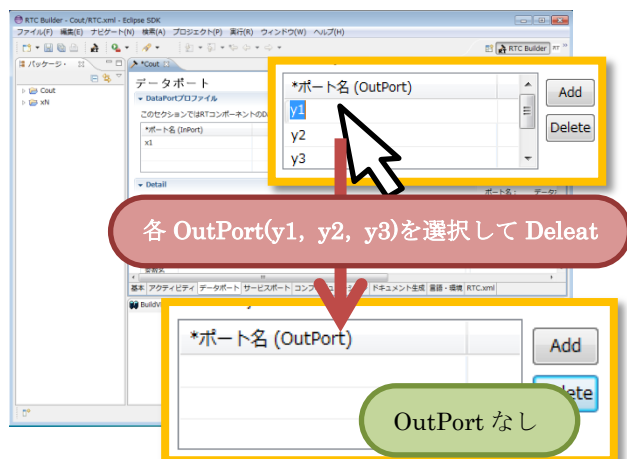
## 006 プロファイルをインポートする



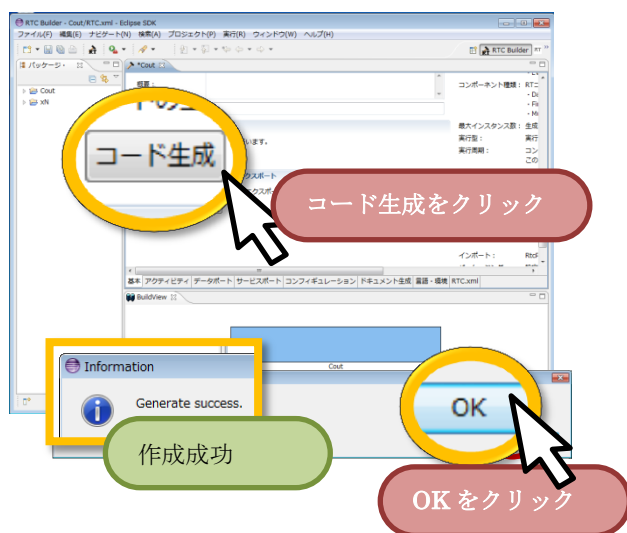
## 007 アクティビティを確認する。(5 か所)



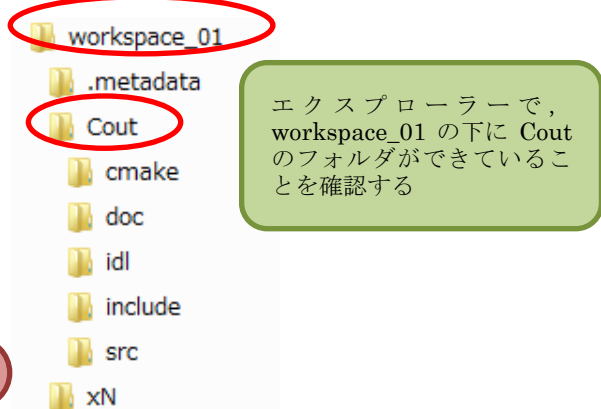
## 008 データポートは、x1 のみ。y1y2y3 削除



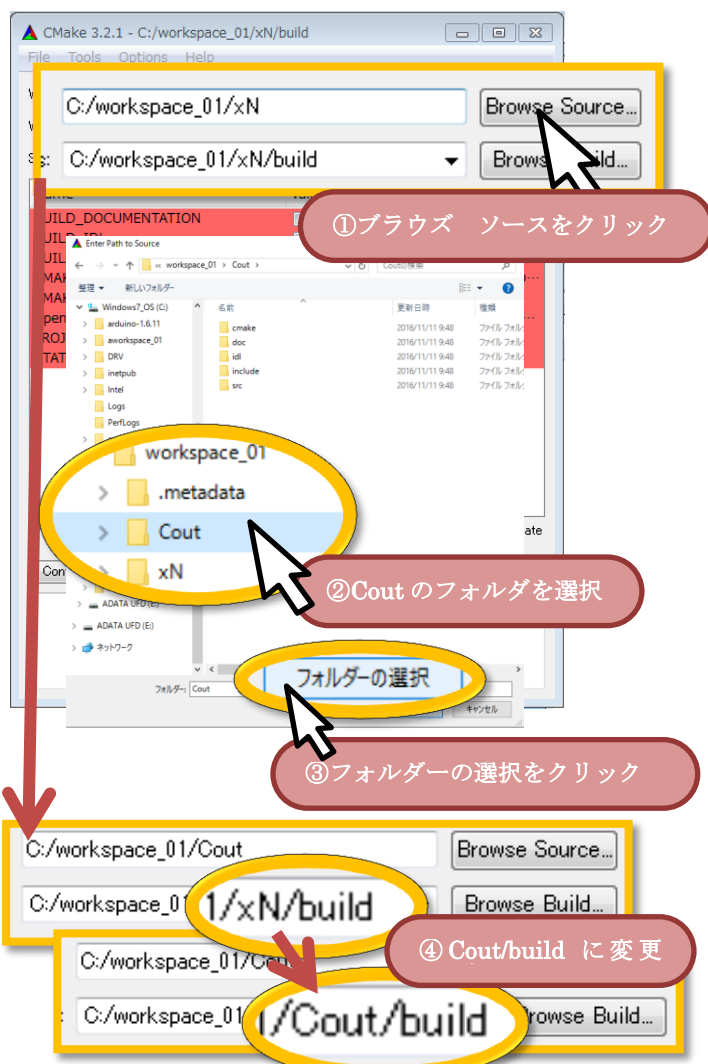
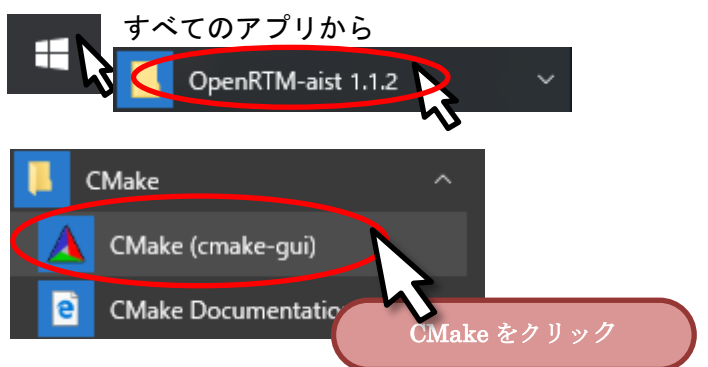
## 009 コード生成



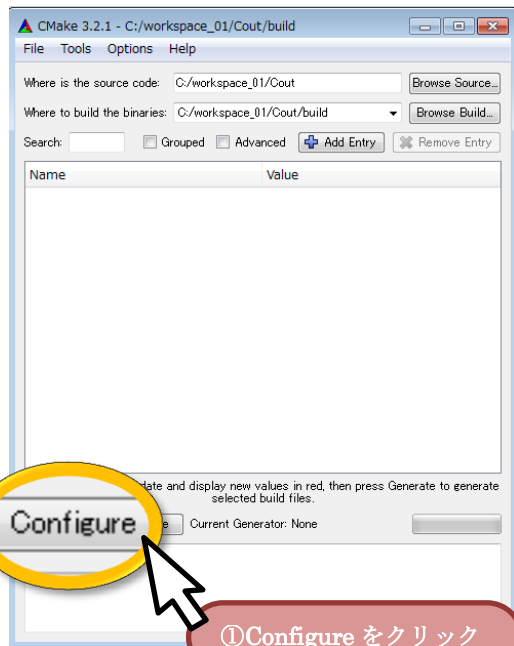
## 010 Cout というフォルダーが workspace\_01 の下にできていることを確認する。



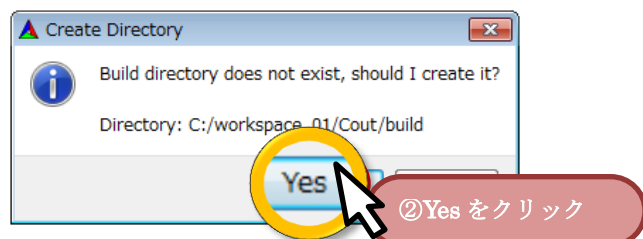
## 011 CMake の設定



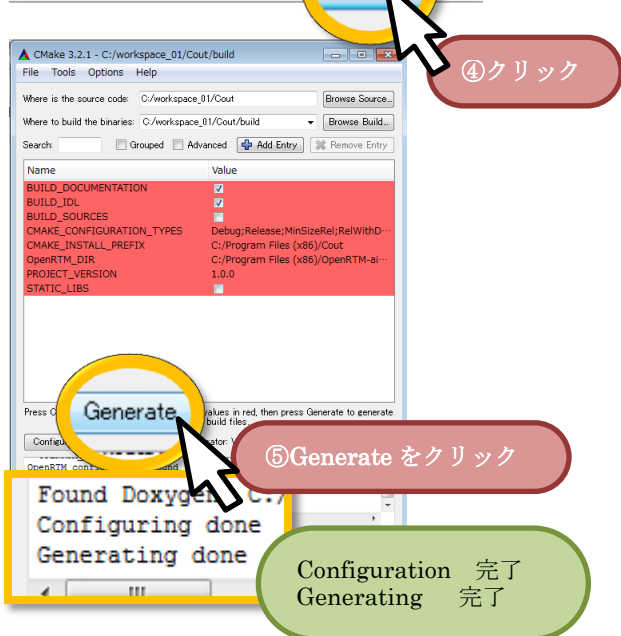
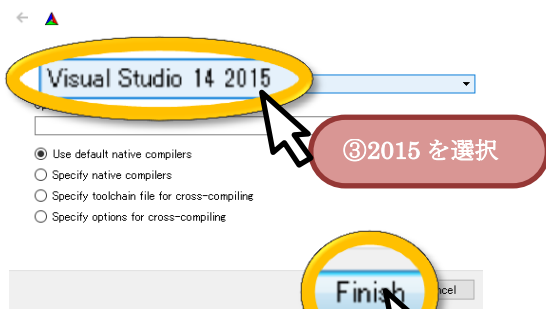
## 012 Cmake : Configure, Generate



build ファォルダ作成の確認。 Yes.

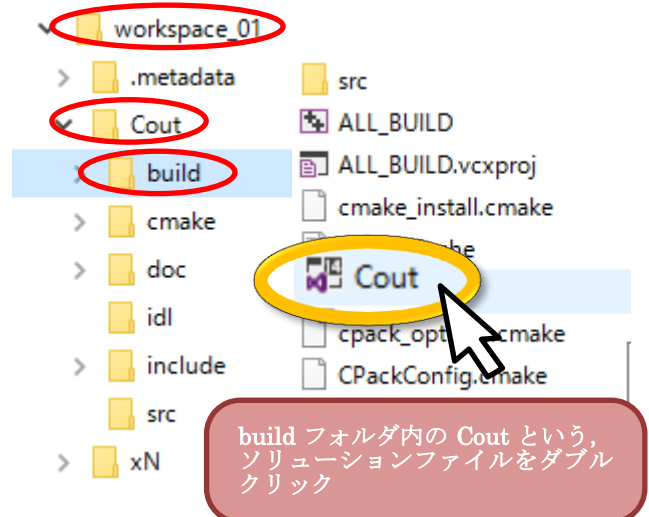


Visual Studio のバージョンの確認



## 013 エクスプローラーで Cout の下の build を開く.

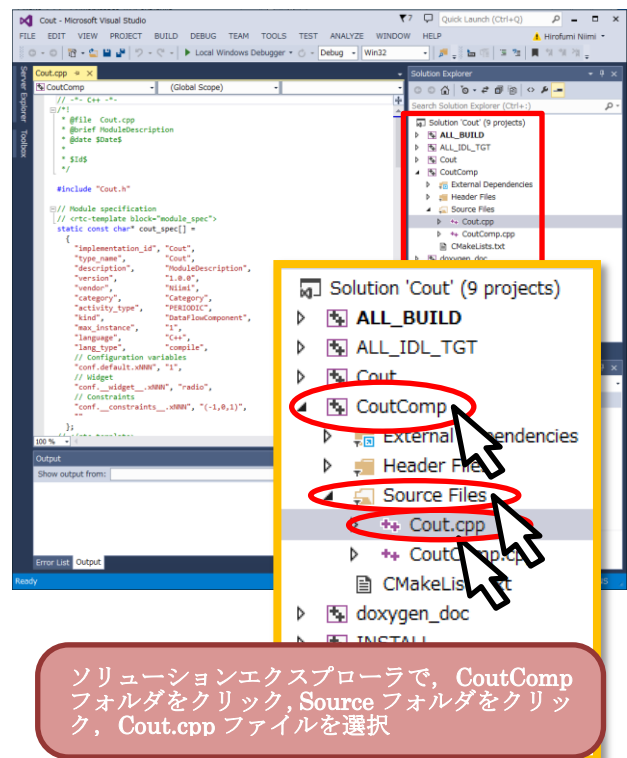
Cout のソリューションファイルをダブルクリック

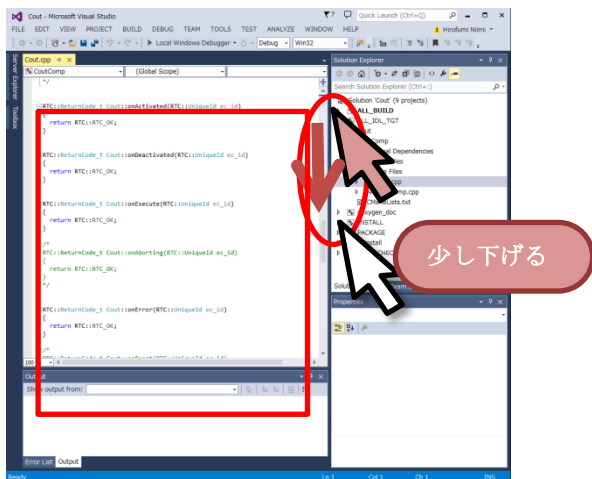


Visual Studio の起動中の画面



Cout.cpp ファイルを開く





```

98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127

```

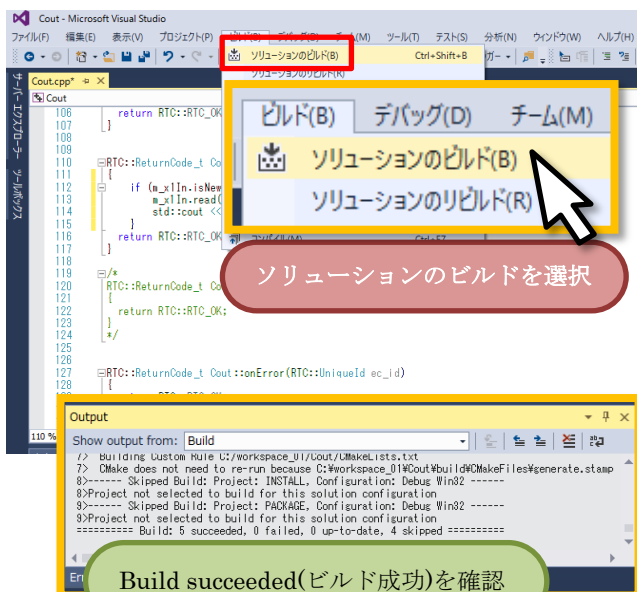
ここにコードを書く

```

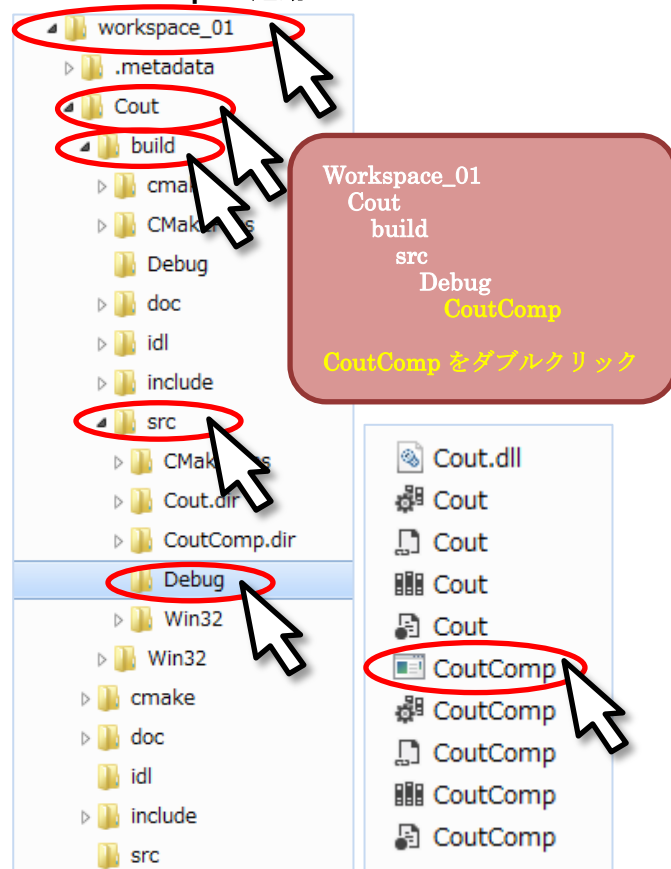
RTC::ReturnCode_t Cout::onExecute(RTC::UniqueId ec_id)
{
    if (m_x1In.isNew()) {
        m_x1In.read();
        std::cout << m_x1.data << std::endl;
    }
    return RTC::RTC_OK;
}

```

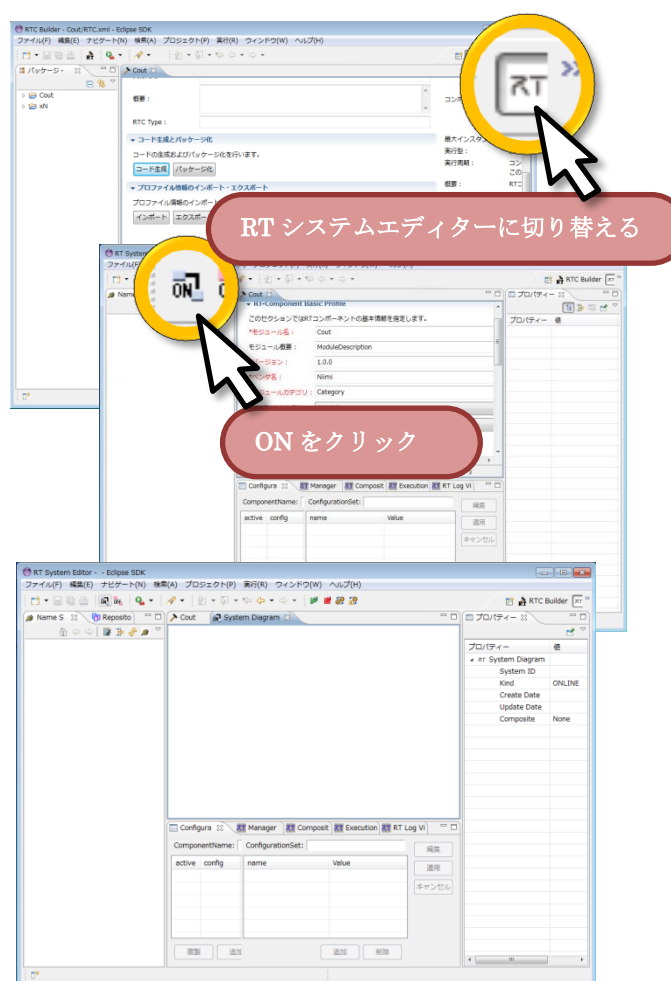
注意：エックス\_いち エンド\_エル



## 014 CoutComp の起動



## 015 RT システムエディターの起動

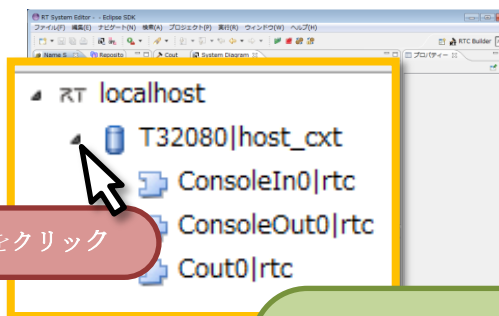
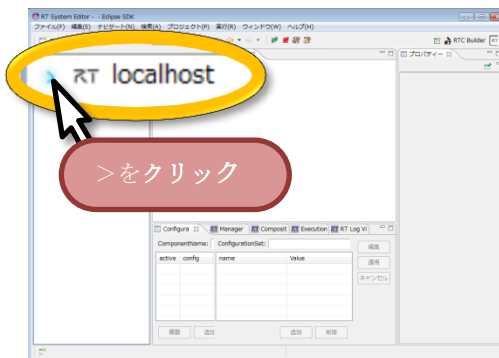




## 016 NamingService の起動

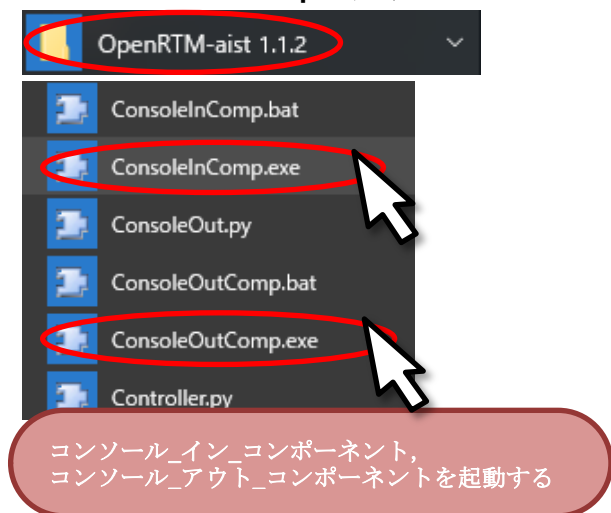


## 019 RTC の確認

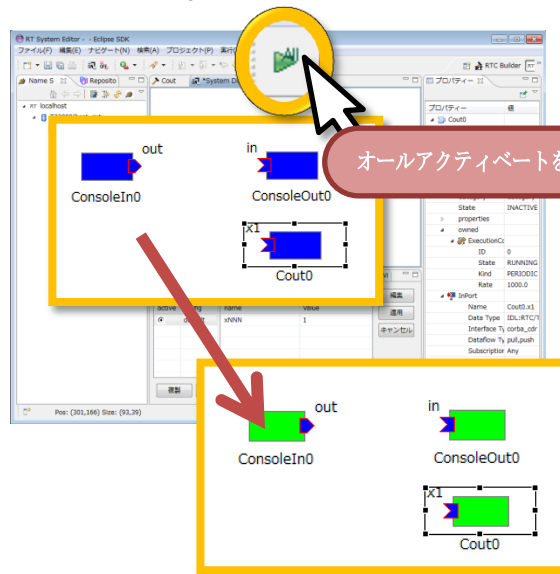


コンソール\_イン, コンソール\_アウト  
シーアウトが表示される。

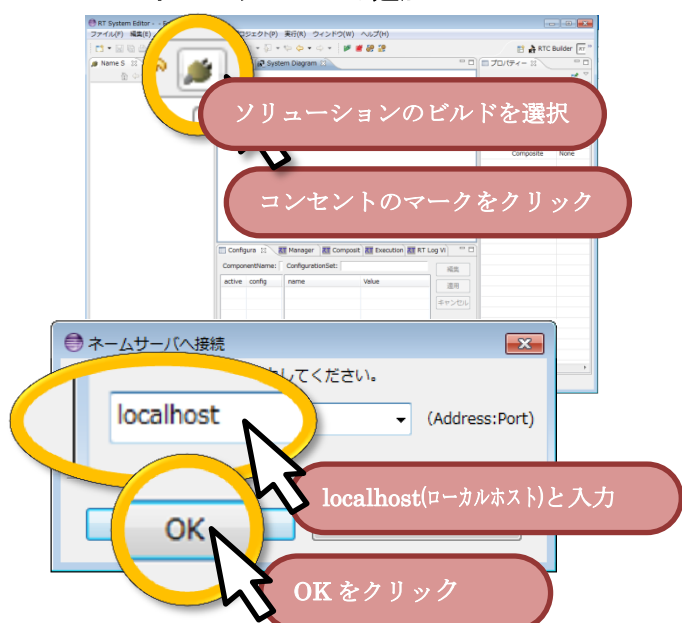
## 017 ConsoleInComp, ConsoleOutComp の起動



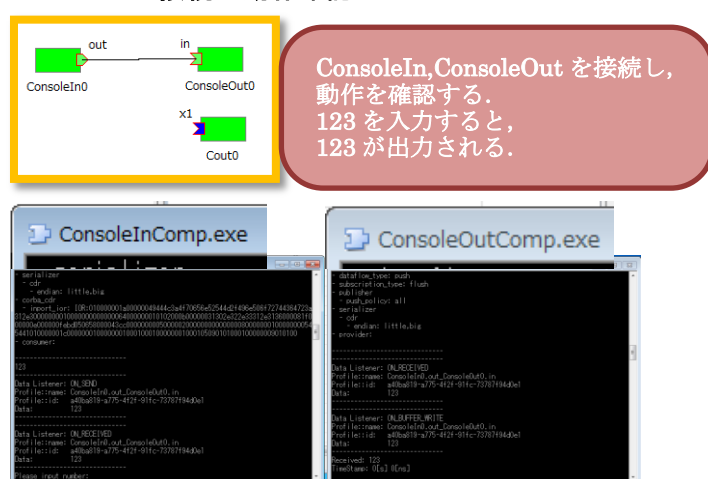
## 020 RTC の配置

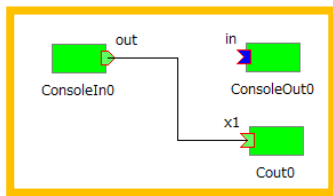


## 018 ネームサービスの追加

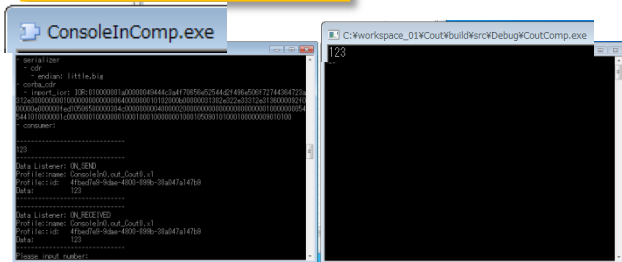


## 021 RTC の接続と動作確認

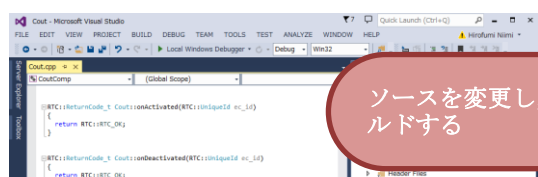




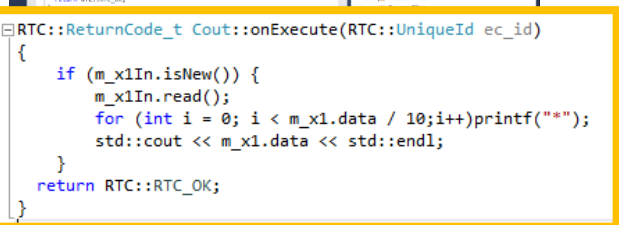
前回の接続線を削除後、ConsoleIn,Coutを接続。123 を入力すると、123 が出力される。



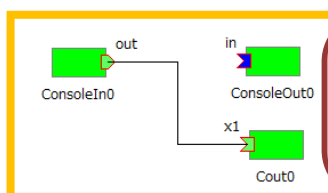
## 022 Cout のソースの更新



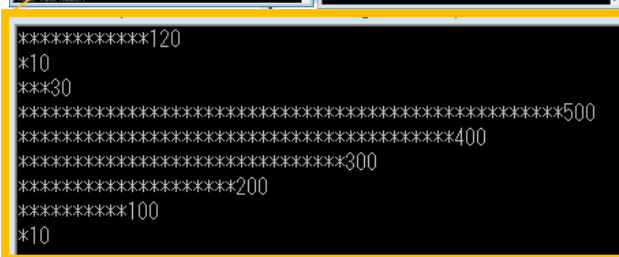
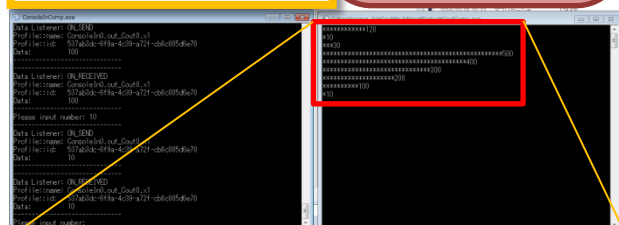
ソースを変更し、ビルドする



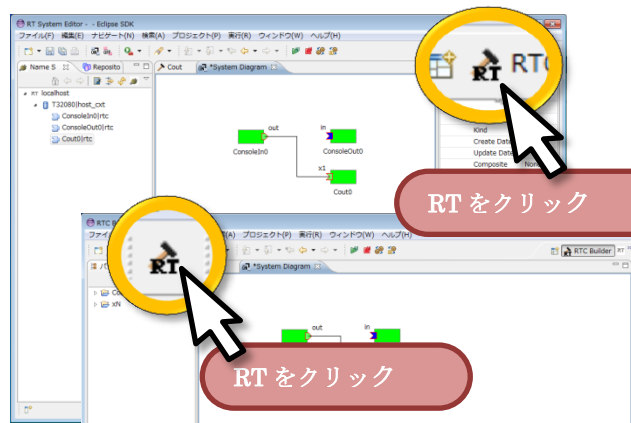
Cout を Build する。CoutComp が起動状態では、Build は失敗する。失敗した場合、CoutComp を閉じて、再び Build する。Cout を起動、接続し、動作確認を行う。10 ごとに、「\*」を表示する棒グラフ。



数字を入力すると 10 で「\*」が一つ表示される。棒グラフのようになる。



## 023 Cin コンポーネントの作成準備



RT をクリック

RT をクリック



Cin と入力

完了(F)

完了をクリック

## 024 RTC ビルダーで設計する



\*モジュール名: Cin

モジュール概要: Module Description

\*バージョン:

\*ベンダ名: Niimi

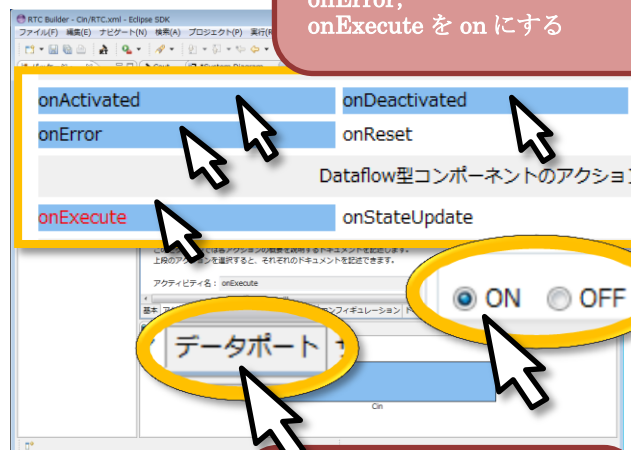
\*モジュールカテゴリ: Category

モジュール名は Cin と入力

作成者の名前

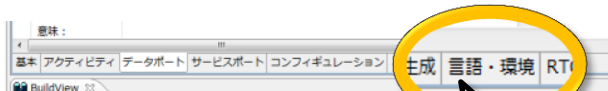
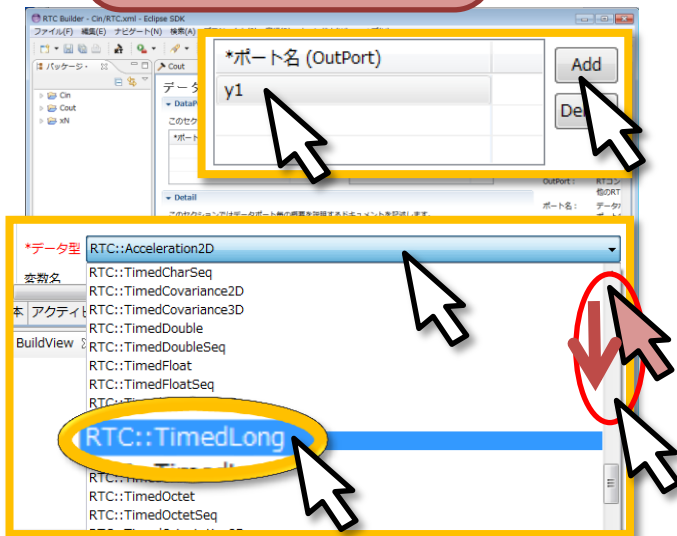
アクティビティに切り替える

onActivated onDeactivated, onReset, onExecute を on にする

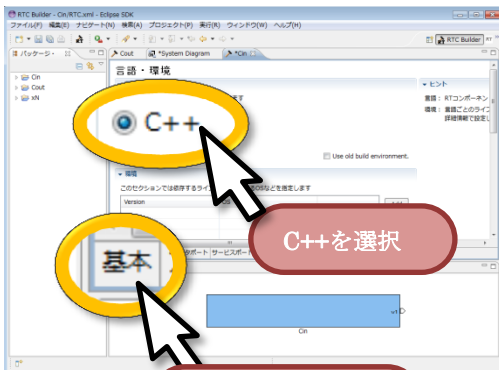


データポートに切り替える

アウトポートの Add を押し、  
ポート名を y1 にする。  
データ型は、TimedLong に設定



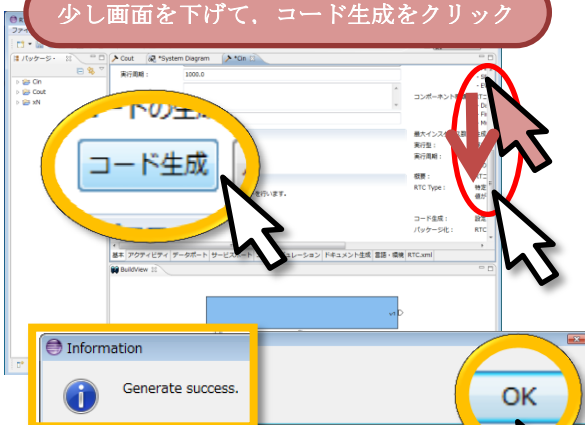
言語・環境に切り替える



C++ を選択

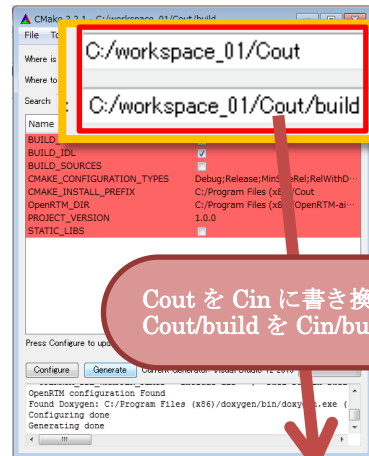
基本に切り替える

少し画面を下げて、コード生成をクリック

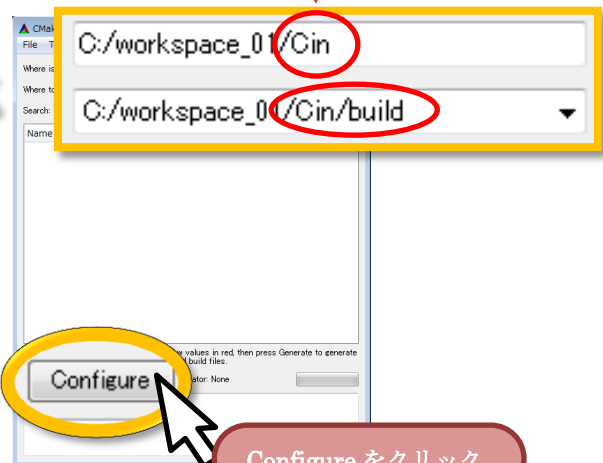


OK をクリック

## 025 CMake

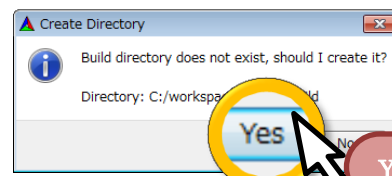


Cout を Cin に書き換える  
Cout/build を Cin/build に書き換える



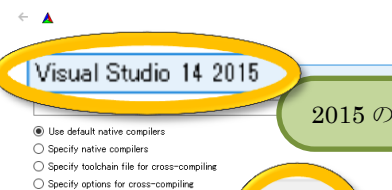
Configure をクリック

build フォルダ作成の確認。Yes。



Yes をクリック

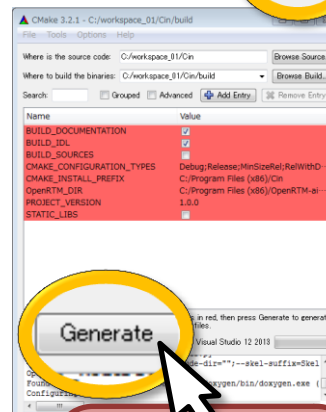
Visual Studio のバージョンの確認



2015 の選択を確認



Finish をクリック



Generate をクリック

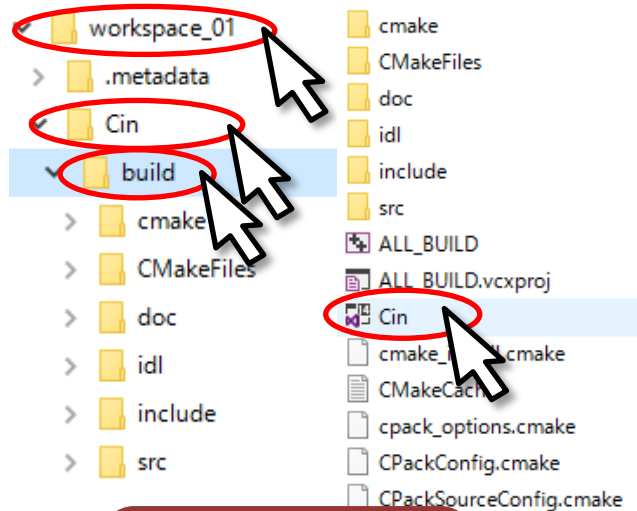
Configuration 完了  
Generating 完了

OPENRTM\_IDL\_WRAPPER\_FLAGS=  
OpenRTM configuration Found  
Configuring done  
Generating done



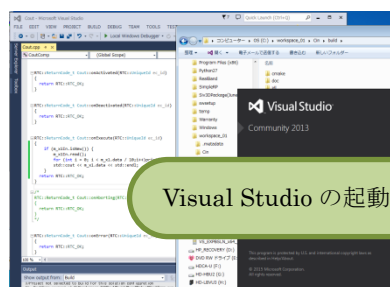
026 エクスプローラーで Cin の下の build を開く。

Cin のソリューションファイルをダブルクリック



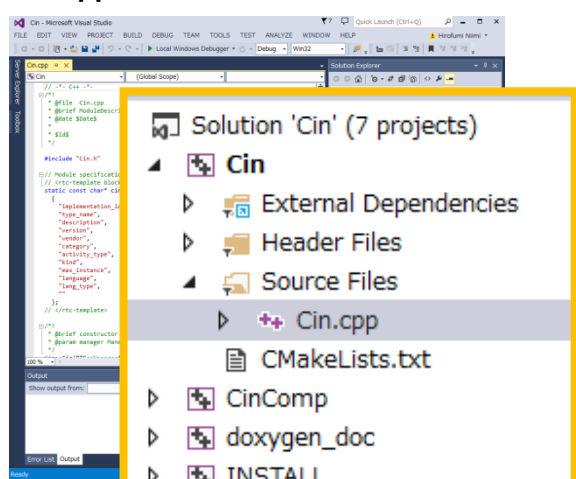
Workspace\_01  
Cin  
build  
Cin  
Cin をダブルクリック

Visual Studio の起動中の画面

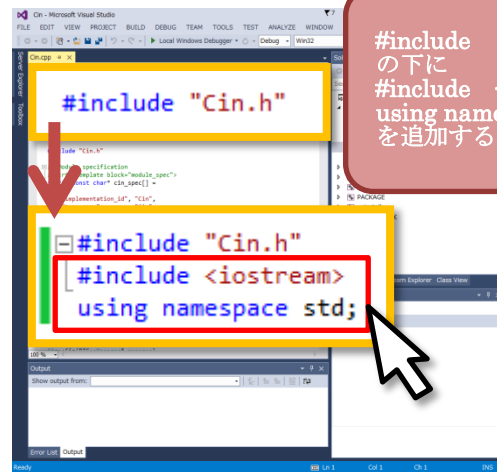


Visual Studio の起動画面

Cin.cpp ファイルを開く



ソリューションエクスプローラーで、  
Cin フォルダをクリック、  
Source フォルダをクリック、  
Cin.cpp ファイルを選択



#include "Cin.h"  
の下に  
#include <iostream>  
using namespace std;  
を追加する。

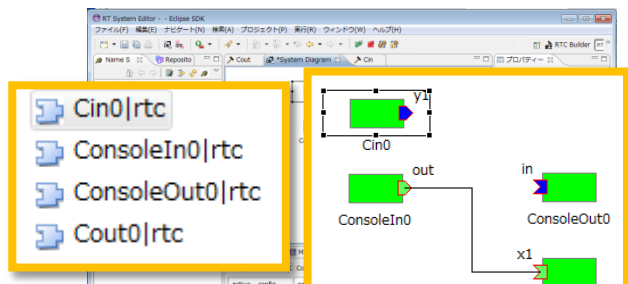


onInitialize()に、  
cout<< "onInitialize";  
を追加

onActivated()に、cout << "onActivated %n";を追加  
onDeactivated()に、cout << "onDeactivated %n";を追加  
onExecute()に、cout << "onExecute %n";を追加  
onExecute()に、cin >> m\_y1.data;を追加  
onExecute()に、cout << "myOut.write0;を追加  
onError()に、cout << "on Error %n";を追加

Cin をビルドする

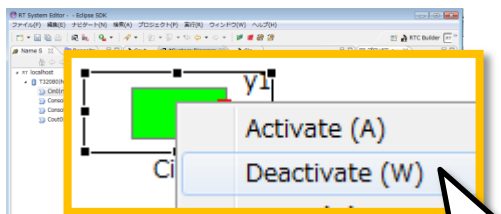
## 027 Cin の動作確認



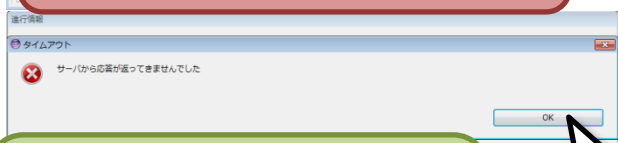
RT システムエディタに切り替え、Cin をドラッグ&ドロップ。右クリックからアクティベート。コンソールインの代わりに Cin を接続→動作確認

```
C:\workspace_01\Cin\build\src\Debug\CinComp.exe
onInitialize
onActivated
整数を入力してください。
```

状態が遷移し、onInitialize,onActivatedなどが、表示される。



右クリックから、ディアクティベートする

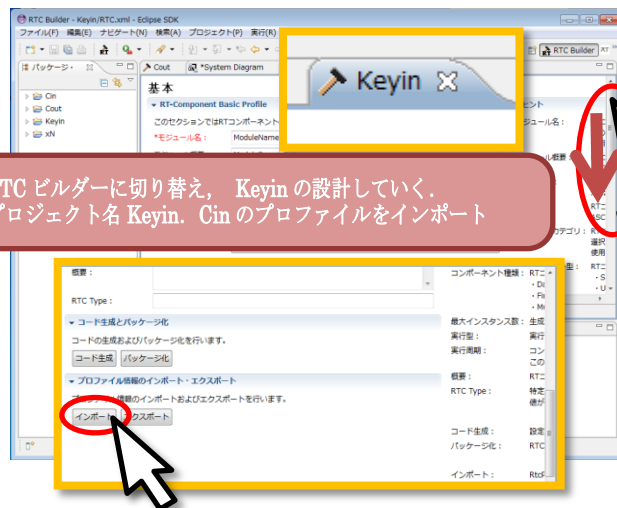


ディアクティベートが入力待ち状態のため、失敗。数字を入力すると、ディアクティベートできる。

```
C:\workspace_01\Cin\build\src\Debug\CinComp.exe
onInitialize
onActivated
onExecute
整数を入力してください。
123
onDeactivated
```

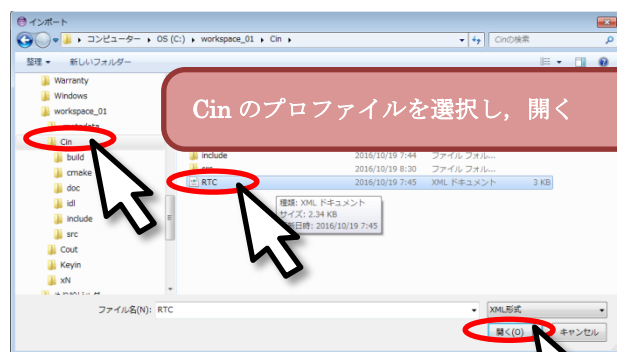
## 028 Keyin の設計

RTC Builder を使い、Keyin の設計していく。



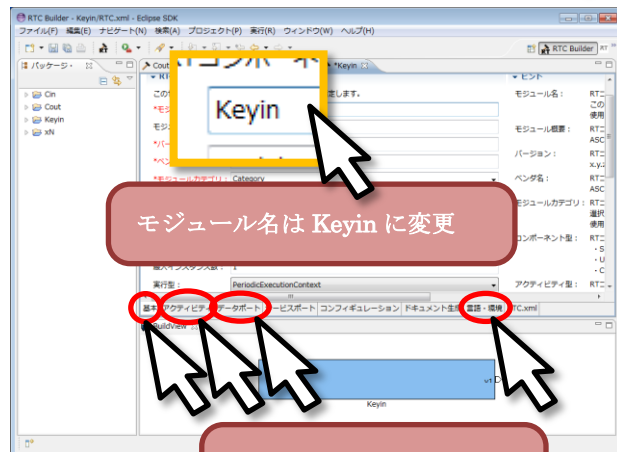
RTC ビルダーに切り替え、Keyin の設計していく。プロジェクト名 Keyin. Cin のプロファイルをインポート

Cin のプロファイルをインポート



Cin のプロファイルを選択し、開く

モジュール名を Cin→Keyin



モジュール名は Keyin に変更

各タブで設定を確認する



アクティビティを確認

データポート

▼ DataPortプロファイル

このセクションではRTCコンポーネントのDataPort(データポート)の情報を設定します。

*ポート名 (InPort)	Add	*ポート名 (OutPort)	Add
y1	Delete		Delete

▼ Detail

このセクションではデータポート毎の概要を上のデータポートを選択すると、それぞれのポート名: y1 (OutPort)

\*データ型: RTC::TimedLong

データポートを確認  
データ型を確認

言語・環境

▼ 言語

このセクションでは使用する言語を指定します

☒ C++  
☐ Java  
☐ Python  
☐ Ruby

言語・環境を確認

実行周期: 1000.0

概要:

RTC Type:

▼ コード生成とパッケージ化

コードの生成およびパッケージ化を行います。

☒ コード生成 ☐ パッケージ化

▼ プロファイルのインポート・エクスポート

プロファイルのインポートおよびエクスポートを行います。

インポート

基本のタブに変更し、  
コード生成をクリック

Information

Generate success.

OK

## CMake

C:/workspace\_01/Keyin

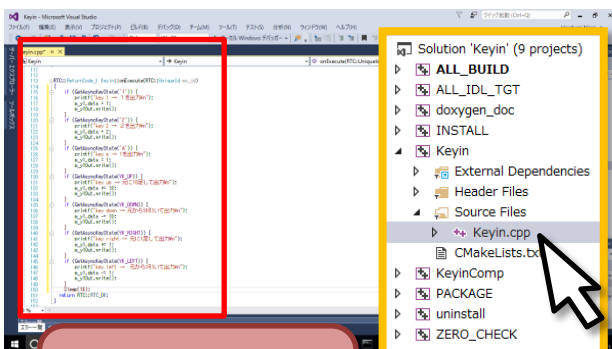
C:/workspace\_01/Keyin/build

CMakeで、CinをKeyinに書き換える(2か所)  
Configureをクリック。Generateをクリック

Configure

Generate

## Visual Studio



Keyin.cppを表示させる

```

98  RTC::ReturnCode_t Keyin::onActivated(RTC::UniqueId ec_id)
99  {
100      printf("Activated [1,2,a,↑↓→←]#\n");
101      m_y1.data = 0;
102      m_y1Out.write();
103      return RTC::RTC_OK;
104  }

```

```

113  RTC::ReturnCode_t Keyin::onExecute(RTC::UniqueId ec_id)
114  {
115      if (GetAsyncKeyState('1')) {
116          printf("key 1 → 1を出力#\n");
117          m_y1.data = 1;
118          m_y1Out.write();
119      }
120      if (GetAsyncKeyState('2')) {
121          printf("key 2 → 2を出力#\n");
122          m_y1.data = 2;
123          m_y1Out.write();
124      }
125      if (GetAsyncKeyState('A')) {
126          printf("key a → 1を出力#\n");
127          m_y1.data = 1;
128          m_y1Out.write();
129      }
130      if (GetAsyncKeyState(VK_UP)) {
131          printf("key up → 元に10足して出力#\n");
132          m_y1.data += 10;
133          m_y1Out.write();
134      }
135      if (GetAsyncKeyState(VK_DOWN)) {
136          printf("key down → 元から10引いて出力#\n");
137          m_y1.data -= 10;
138          m_y1Out.write();
139      }
140      if (GetAsyncKeyState(VK_RIGHT)) {
141          printf("key right → 元に1足して出力#\n");
142          m_y1.data += 1;
143          m_y1Out.write();
144      }
145      if (GetAsyncKeyState(VK_LEFT)) {
146          printf("key left → 元から1引いて出力#\n");
147          m_y1.data -= 1;
148          m_y1Out.write();
149      }
150      Sleep(10);
151      return RTC::RTC_OK;
152  }

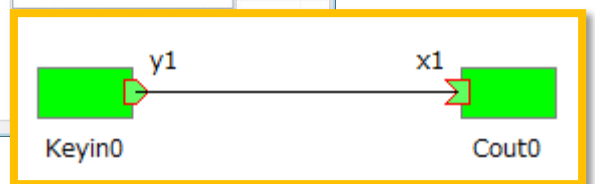
```

入力が大変な場合、if 文の塊を一つだけ入力して動作チェックを行うと良い。  
printf(“この部分”)は、コンソールに出力させる文字なので、簡略化しても良い。

## 動作確認



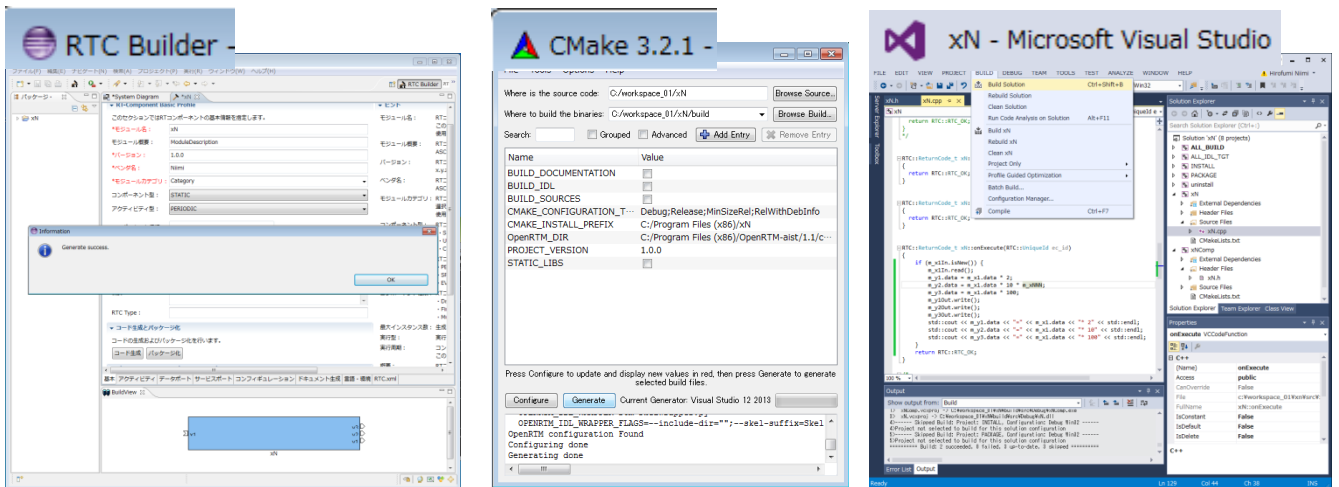
RTCを接続し、アクティベート



キーボードの各ボタンを押すと、  
それに対応した数値が出力される

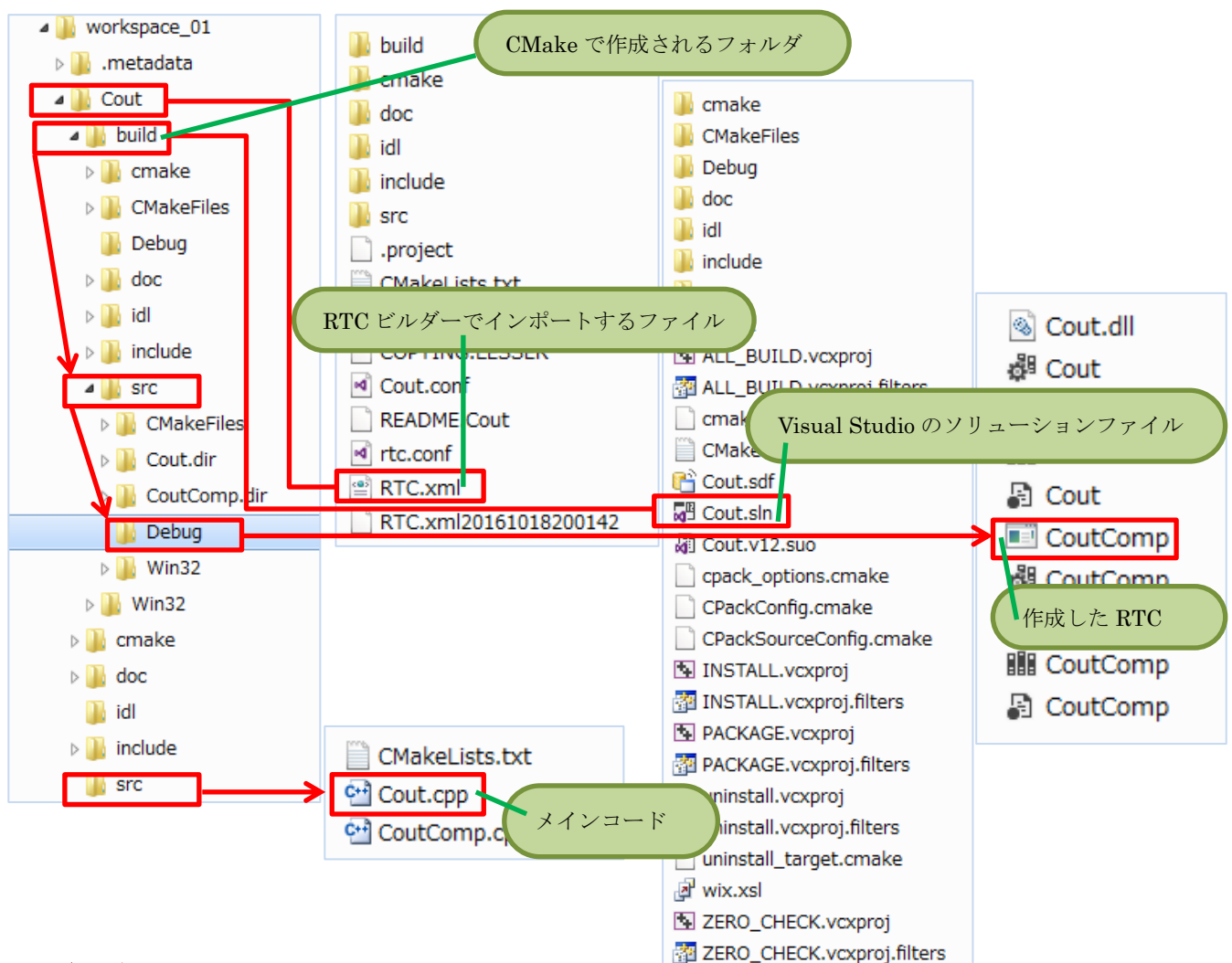
## この練習課題の意図

RTC ビルダーでコンポーネントを構築し、CMake で必要なファイルを作り、VisualC++でコードを書いてビルドする。RT システムエディタで操作確認を行う。この操作を 3 回練習することにより、RTC 作成の基本手順が身につくように工夫した。RTC ビルダーでプロファイルをインポートする練習は、以前に作成した RTC に新たにポートを追加する場合に、使うことにできる方法である。



## 作成されたファイルの構造

ソリューションファイルや作成した RTC の場所を下記に示す。



## 各コードの説明

**Cout** : コンソールアウトに相当する RTC. 簡易棒グラフ機能付き。

x1In に新しい入力があったら、x1In を読む。 "\*"を出力する for 文。 10 で "\*" を 1 つ表示するとともに、x1 の値を出力する。

```
RTC::ReturnCode_t Cout::onExecute(RTC::UniqueId ec_id)
{
    if (m_x1In.isNew()) {
        m_x1In.read();
        for (int i = 0; i < m_x1.data / 10; i++) printf("*");
        std::cout << m_x1.data << std::endl;
    }
    return RTC::RTC_OK;
}
```

### Cin(021~027)

コンソールラインに相当する RTC。 状態の遷移を表示する。

#include<iostream>で標準入出力関数が使えるようにする。

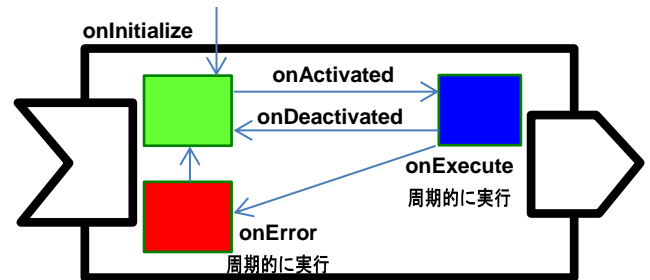
using namespace std 使う名前空間の指定。

cout << "onInitialize ¥n";は onInitialize が実行されたとき、コンソールに表示する。 onActivated, onDeaActivated, onError も同様に状態を表示できるようにする。

cout << "整数を入力してください。 ¥n"; 整数を入力してくださいと表示。

cin >> m\_y1.data; データの入力待ち状態。 入力値は y1 に渡される。

m\_y1Out.write(); y1 の値を出力する。



```
// -*- C++ -*-
/*!
 * @file Cin.cpp
 * @brief ModuleDescription
 * @date $Date$
 * $Id$
 */
```

```
#include "Cin.h"
#include <iostream>
using namespace std;
```

```
RTC::ReturnCode_t Cin::onInitialize()
{
    // Registration: InPort/OutPort/Service
    // <rtc-template block="registration">
    // Set InPort buffers

    // Set OutPort buffer
    cout << "onInitialize \n";
    addOutPort("y1", m_y1Out);

    // Set service provider to Ports

    // Set service consumers to Ports

    // Set CORBA Service Ports

    // </rtc-template>

    // <rtc-template block="bind_config">
    // </rtc-template>

    return RTC::RTC_OK;
}
```

```
RTC::ReturnCode_t Cin::onActivated(RTC::UniqueId ec_id)
{
    cout << "onActivated \n";
    return RTC::RTC_OK;
}

RTC::ReturnCode_t Cin::onDeactivated(RTC::UniqueId ec_id)
{
    cout << "onDeactivated \n";
    return RTC::RTC_OK;
}

RTC::ReturnCode_t Cin::onExecute(RTC::UniqueId ec_id)
{
    cout << "整数を入力してください。 \n";
    cin >> m_y1.data;
    m_y1Out.write();

    return RTC::RTC_OK;
}

/*
RTC::ReturnCode_t Cin::onAborting(RTC::UniqueId ec_id)
{
    return RTC::RTC_OK;
}
*/

RTC::ReturnCode_t Cin::onError(RTC::UniqueId ec_id)
{
    cout << "onError \n";
    return RTC::RTC_OK;
}
```



## Keyin (028)

1, 2, a, ↑, ↓, ←, → のキーが押されると, 1, 2, 1, もと + 10, もと - 10, もと + 1, もと - 1 を出力する RTC. キーが押されると, TimedLong 型の数値を出力する. 1 が押されると 1 が出力し, 2 が押されると 2 を出力する. a が押されると 1 を出力する. 同じ要領で, 3, 4, 5 や b, c, d を押すと数値を出力するプログラムをつくることができる. ↑を押すと元に値に 10 足された値, ↓を押すと元の値から 10 引かれた値が出力される. →を押すと元に値に 1 足された値, ←を押すと元の値から 1 引かれた値が出力される.

```
RTC::ReturnCode_t Keyin::onActivated(RTC::UniqueId ec_id)
{
    printf("Activated [1,2,a,↑↓←→]\n");
    m_y1.data = 0;
    m_y10Out.write();
    return RTC::RTC_OK;
}
```

```
RTC::ReturnCode_t Keyin::onExecute(RTC::UniqueId ec_id)
{
    if (GetAsyncKeyState('1')){
        printf("key 1 → 1 を出力\n");
        m_y1.data = 1;
        m_y10Out.write();
    }
    if (GetAsyncKeyState('2')){
        printf("key 2 → 2 を出力\n");
        m_y1.data = 2;
        m_y10Out.write();
    }
    if (GetAsyncKeyState('A')){
        printf("key a → 1 を出力\n");
        m_y1.data = 1;
        m_y10Out.write();
    }
    if (GetAsyncKeyState(VK_UP)){
        printf("key up → 元に10足して出力\n");
        m_y1.data += 10;
        m_y10Out.write();
    }
    if (GetAsyncKeyState(VK_DOWN)){
        printf("key down → 元から10引いて出力\n");
        m_y1.data -= 10;
        m_y10Out.write();
    }
    if (GetAsyncKeyState(VK_RIGHT)){
        printf("key right → 元に1足して出力\n");
        m_y1.data += 1;
        m_y10Out.write();
    }
    if (GetAsyncKeyState(VK_LEFT)){
        printf("key left → 元から1引いて出力\n");
        m_y1.data -= 1;
        m_y10Out.write();
    }

    Sleep(10);
    return RTC::RTC_OK;
}
```

## RTC で使用するデータの型

今回はすべて, TimedLong 型を使用した.